

## 新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R3.9/20(月)～R3.9/26(日) 令和3年第38週

### <感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
陽性者数	① 合計 <sup>※2</sup>	356人	729人	-	-
	② 対人口10万人	23.1人	47.3人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	0.49	0.49	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		62%	65%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 <sup>※3</sup> （%）＝陽性者数÷検査件数		10.0%	12.9%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しております。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、陽性率が実際よりも高い状況となっております。

8月17日掲載分からは、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しております。

検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いております。

### <医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
<報告日>		9/26現在	9/19現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	125人	170人	-	-
	確保病床数	455床	455床	-	-
	病床使用率	33.8%	45.9%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	21人	28人	-	-
	確保病床数	66床	66床	-	-
	病床使用率	31.8%	42.4%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	478人	1144人	-	-
	⑨ 対人口10万人	31.0人	74.3人	20人以上	30人以上

## <参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
<報告日>	9/26現在	9/19現在	-	-
⑩ 入院率 <sup>※4</sup> (%) =入院中の患者÷療養者数(陽性確定例)	26.2%	14.9%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院優先度判定スコア等を用いて入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

## <変異ウイルス検出状況>

### (1) スクリーニング検査(変異ウイルスの検出状況) <sup>※5</sup>

#### L452R スクリーニング検査

		直近1週間 9/20 ~ 9/26	前週 9/13 ~ 9/19	累計 3/11 ~ 9/26
川崎市健康安全研究所	検査実施数	51件	93件	1,914件
	検出数	45件	88件	1,627件
	検出率	88.2%	94.6%	85.0%
民間検査機関等 <sup>※6</sup>	検出数	44件	106件	3,098件

### (2) ゲノム解析等<sup>※7</sup>(変異ウイルスの鑑別状況)

	直近1週間 9/20 ~ 9/26	前週 9/13 ~ 9/19	累計 3/11 ~ 9/26
α株(アルファ): 英国株	0件	0件	203件
β株(ベータ): 南アフリカ株	0件	0件	0件
γ株(ガンマ): ブラジル株	0件	0件	0件
δ株(デルタ): インド株	0件	0件	9件

※5 従来株から N501Y 変異株にほぼ置き換わった一方、市内においても L452R 変異株が増加しつつあることから、厚生労働省通知に基づき、L452R 変異株の監視を強化するため、健康安全研究所による N501Y スクリーニング検査は、7月19日以降、実施しないこととしました。

※6 民間検査機関等による検査実施数は不明のため、検出数のみ掲載

※7 ゲノム解析の検査結果は不定期で報告されている。

## <評価>

令和3(2021)年9月20日(月)～9月26日(日)(令和3年第38週)の川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、感染の状況は第33週(8月16日～22日)をピークに、医療提供体制等の負荷については第34週(8月23日～29日)をピークとして減少に転じました。ステージ分類としては第30週より第36週まで7週間連続してステージ分類はすべてがステージⅣとなっていました。第37週より感染の状況は3項目中3項目がステージⅣ、医療提供体制の負荷については3項目中2項目がステージⅣからステージⅢに転じました。第38週(今週)は、感染の状況は3項目中1項目がステージⅣからステージⅢに転じ、医療提供体制の負荷については3項目中1項目がステージⅣ、2項目がステージⅢとなりました。

皆様方には大変なご不便をおかけしておりますが、新規陽性者数発生状況、医療体制ともに減少傾向が続いています。もう少し減少が続き重症患者発生がさらに少なくなりリバウンドのリスクが少なくなり、一般の医療が維持され、日常生活や経済状況が回復できますよう、もうしばらく感染リスクが高まる行動は避けてくださいますよう、重ねてお願いいたします。

## <感染の状況:直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、第24週(6月14～20日)に305人まで減少しましたが、第25週(6月21～27日)から増加に転じ、第30週(6月26日～7月1日)から急増。第33週(8月16日～22日)4308人をピークに減少に転じ、第34週3716人から、2550人→1494人→729人、そして第38週(今週)356人と5週続けて減少しました。
- ② 対人口10万人あたりの累積新規陽性者数も、第24週(6月14～20日)に19.8人まで減少しましたが、第25週(6月21～27日)から増加に転じ、第33週(8月16日～22日)279.7人をピークに減少に転じ、第34週241.3人から、165.6人→97.0人→47.3人、そして第38週(今週)23.1人と5週続けて減少しました。ステージ分類は第27週から第37週まで11週連続ステージⅣ相当(25人以上)でしたが、第38週(今週)からステージⅢとなっています。
- ③ 前週との増加比は、第24週(6月14～20日)は0.87と低値でしたが、第25週(6月21～27日)から増加に転じ、多少の増減はありましたが、第30週(7月26日～8月1日)2.32をピークに減少に転じ、第31週1.23から、1.19→1.10→0.86→0.69→0.49と減少し、第38週(今週)は0.49と変動はありませんでした。1.0をこのまま下回り続ければ、新規陽性者数減少が続きます。その結果は入院数、重症者数の低下につながります。市内においてさらなる新規陽性者数の減少につながるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第33週(8月16日～22日)の81%をピークに減少に転じ、第34週77%から、74%→68%→65%、そして第38週(今週)62%と5週連続して減少となりました。しかし、ステージ分類は依然ステージⅢ・Ⅳ相当(50%以上)であり、21週連続となっています。
- ⑤ 検査陽性率は、第17週より第20週までステージⅣ相当(10%以上)が4週間連続し、第21週以降はステージⅢ(5%以上)とⅣ(10%以上)を交互に繰り返していました。その後第27週の12.9%から、20.2%→37.2%→41.9%→46.1%→第32週54.9%と急上昇しました。この検査陽性率の急上昇については、感染の状況の表の※3の説明をご覧ください。

本項目につきましては、第34週以降は陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いた数値から算出した陽性率を掲載しておりますので、連続性がやや失われますが、新算出方法では、第31週37.9%から、42.9%→40.6%→38.3%→29.4%→20.6%→12.9%、第38週(今週)10.0%と減少が続いています。ステージ分類では依然ステージⅣであり、旧算定方法を含み12週連続してステージⅣ相当(10%以上)となっていますが、第38週(今週)はステージⅣの指標10.0%と同値となっています。

## <医療提供体制等の負荷：報告日9.26現在>

⑥ 入院中の患者数は、第 34 週（8 月 23 日～29 日）286 人をピークに、276 人→235 人→170 人、そして第 38 週（今週）125 人と 4 週間連続で減少しました。

第 25 週の確保病床数 241 床から徐々に増床が続き、第 36 週には 455 床となりました。したがって病床使用率は異なった病床数で算定することになりますが、第 25 週 26.8%から増加し、第 33 週（8 月 16 日～22 日）93.9%まで上昇しましたが、これをピークに第 34 週 81.5%から、78.6%→63.5%→45.9%、そして第 38 週（今週）は 33.8%と 5 週連続して減少しました。ステージ分類では、第 30 週から第 36 週まで 7 週連続してステージⅣ（50%以上）が続いていましたが、第 37 週、第 38 週（今週）と 2 週連続してはステージⅢ（20%以上）となりました。

⑦ 重症入院患者数は第 30 週から増加が続きましたが、第 34 週（8 月 23 日～29 日）68 人をピークに 64 人→48 人→28 人、そして第 38 週（今週）21 人と 4 週連続して減少となりました。

重症者の病床使用率は確保病床 30 床のうち、第 20 週 53.3%、第 21 週 80.0%、第 22 週 76.7%と 3 週連続してステージⅣ相当（50%以上）でしたが、その後はステージⅢ（20%以上）状態を 7 週間維持していました。しかし第 30 週は、76.7%と急増して再びステージⅣ相当となり、第 31 週は 140%に増加しました。第 32 週には病床確保数が 15 床増加して 45 床となり、病床使用率は 120.0%となり第 31 週の 140.0%を下回りました。第 33 週は 146.7%と再び増加しましたが、第 34 週には重症患者確保病床数が 10 床増加し合計 55 床となったことにより病床使用率は 123.6%と減少し、第 35 週は 116.4%と 2 週連続して減少しました。第 36 週は病床数が 11 床増加して 66 床となり、重症者病床使用率は 72.7%とさらに減少し、第 37 週 42.4%、第 38 週（今週）31.8%となり、ステージ分類ではステージⅣ（50%以上）が 7 週連続していましたが、第 37 週、第 38 週（今週）2 週連続してステージⅢ（20%以上）となりました。

⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口 10 万人は、第 25 週 25.3 人とそれまで 9 週連続してステージⅢ相当（20 人以上）でした。その後第 26 週（6 月 28 日～6 月 4 日）30.9 人からステージⅣ相当（30 人以上）なりその後増加が続きましたが、第 33 週（8 月 16 日～22 日）269.0 人をピークに、第 34 週 265.9 人→222.5 人→131.8 人→74.3 人、そして第 38 週（今週）31.0 人と 5 週間連続して減少しました。しかし、ステージ分類では、13 週連続してステージⅣ相当（30 人以上）となっています。

#### <変異ウイルス検出状況>

L452R 変異株（デルタ株と考えられる）スクリーニングは川崎市健康安全研究所では第 24 週 3 件から、1 件→2 件→6 件→20 件→52 件、第 30 週 170 件から、207 件→224 件→272 件→186 件→193 件→151 件と推移し、第 37 週 58 件、第 38 週（今週）45 件と減少しています。検出率は 88.2%となっています。なお民間検査機関からは第 26 週 4 件から、11 件→29 件→57 件と増加し、その後も第 30 週 102→298 件→137 件→260 件→549 件→996 件→503 件、そして第 37 週 106 件、第 38 週（今週）44 件と推移しています。

国立感染症研究所による詳細なゲノム解析による分類結果は、第 38 週（今週）も届いてはならず、アルファ株（ $\alpha$ ：英国株）、ベータ株（ $\beta$ ：南アフリカ株）、ガンマ株（ $\gamma$ ：ブラジル株）、デルタ株（ $\delta$ ：インド株）について新たに確認されたものではありませんでした。これまでの累計は、アルファ株 203 件、ベータ株 0 件、ガンマ株 0 件、デルタ株 9 件となっています。

9 月 27 日現在、緊急事態宣言地域は北海道・茨城県・栃木県・群馬県・東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・静岡県・愛知県・岐阜県・滋賀県・三重県・京都府・大阪府・兵庫県・広島県・福岡県・沖縄県の計 19 都府県について 9 月 30 日まで。まん延防止重点措置地域は、宮城県・福島県・石川県・岡山県・香川県・熊本県・宮崎県・鹿児島県の合計 8 県となり、同じく 9 月 30 日までとなっています。

本市におきましては、今回のいわゆる第 5 波において新規陽性者数は第 33 週（8 月 16 日～22 日）をピ

ークに減少が続き、第 37 週は 1000 人以下、第 38 週（今週）は 500 人以下となり、第 1 週（1 月 4 日～10 日）のピークを下回っています。医療提供体制等の負荷のピークは第 34 週（8 月 23 日～29 日）であり、確保病床数、重症患者確保病床数の増加と相まって状況は好転していますが、引き続き十分な注意と警戒は必要です。

ステージ分類は、第 30 週より第 36 週まで 7 週間連続してすべてがステージⅣとなっていました。第 37 週より感染の状況は 3 項目中 3 項目がステージⅣですが、医療提供体制の負荷については 3 項目中 2 項目がステージⅣからステージⅢに転じました。第 38 週（今週）は、感染の状況は 3 項目中 1 項目がステージⅣからステージⅢに転じ、医療提供体制の負荷については 3 項目中 1 項目がステージⅣ、2 項目がステージⅢとなりました。

神奈川県が緊急事態宣言対象地域として 9 月 30 日まで延長となったことに伴い、本市も緊急事態宣言地域のままとなっております。大変なご不便、ご迷惑をおかけしておりますが、このところの新規陽性者数、入院数、重症患者数の減少は、市民の方々のご理解ご協力の賜物です。ステージ分類も 6 項目中 3 項目がステージⅢとなりましたが、安心が油断となり注意が緩んでしまうと再び数値は増加し、リバウンドとなってしまうことが危惧されることです。

治療は医療機関で行いますが、新型コロナウイルスに感染しないようにするのは、市民御一人御一人の注意によります。ご自身が重症者にならぬよう、身の回りの方が重症者にならぬよう、新規陽性者数・入院数・重症者数の減少が続くよう、感染リスクが高まる行動はもうしばらくの間避けてくださるよう、よろしく願いいたします。

人の動きの低下は感染症の減少に一致します。もしどちらかへお出かけになる時には、感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされますようお願いいたします。感染リスクのある行動を避けることによって、新規陽性者数がさらに減少し、ひいては入院や重症患者発生が少なくなり、一般の医療が維持され、さらに日常生活や経済状況の回復につながります。

三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時はマスクをつける、換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、日常生活においても飲食などの場においても、感染の拡大を予防するための基本的なかつ重要な注意点であり、これまでのウイルスであっても変異型のウイルスであっても共通の、また有効な予防対策法です。当市におけるワクチン接種は進んでおり、2 回の接種を受けた方も多くいらっしゃいますが、ワクチン接種後であっても感染対策の基本は必要です。

だいぶ秋めいてきましたが、涼しい日もあれば、暑い日もあるという不順な天候になっています。全般的な体調管理にもどうぞお気を付けてお過ごしください。台風や大雨のニュースも続いています。自然災害などへの注意・備えもお忘れなきようお願いいたします。